



児童幼児教育学科 幼児教育専攻・児童教育専攻 科目一覧 【2009年度】

※下記は平成21年度開講予定の科目で、平成22年度以降、変更の可能性あります。
※このほかに社会情報学部(社会情報学科、コミュニケーション学科)の科目の中から履修できる科目もあります。

幼児 児教		必修科目	選択科目
保育・教育理論科目	幼児教育基礎論	幼前期、子どもはどう育ち育てられるのか。自分の幼前期を振り返り、育て合う教育を展開していきます。	
	教育制度論	学校や幼稚園の社会的な位置づけを法や制度的な背景から理解するとともに、保育機関や家庭との連携などについて学びます。	
	保育者論	集団の中で子どもと関わる教師(保育者)の社会的使命、専門性、求められる資質について考えていきます。	
	教育学概論	教員となるために必要な知識として、教育の目標・意義、思想、歴史を学び、教育内容、教育課程の意義および編成の方法を学びます。	
	教育者論	教職の意義や教員の役割について高い見地から学び、また変化のいちじるしい教育課程に対応した望ましい教育者のあり方についても学びます。	
	教育心理学	幼前期にふさわしい知的発達、自発的な遊びを通してなされることをふまえ、発達に対応した学習過程の特徴を把握していきます。	
	教育課程総論I	Iでは保育における教育課程(保育計画)編成の根拠、指導案との関係などを具体的に理解し、適切な保育実践を図る力を養い、	
	教育課程総論II	IIでは編成の実際・指導計画の作成、評価方法等を研究します。	
	乳児保育I	3歳未満児の成長発達とその特質を理解しながら、児童福祉施設における未満児保育の内容と実践力の基礎を学びます。	
	障がい児保育	特別に助力を必要とする障がいをもつ子どもの保育について考えます。障がい児保育をめぐる新しい理念の理解をめざします。	
	臨床発達心理学	主要な心理療法の原則と過程について理解を深め、遊戯療法や関係状況療法を中心とした集団心理療法の意義や方法について学びます。	
	保育・教育相談	カウンセリングの基礎理論を学び、現代の子育てで状況への理解を深めることで、子育てをサポートする相談活動を担う力を伸ばします。	
	教育相談	学校教育相談および学校カウンセリングについての基本的な知識を身につけ、必要な臨床的知識と資質について学びます。	
	多文化教育	多彩な文化におけるコミュニケーションのあり方を分析、異文化に出会った時にどう対処していくかという実践面も学びます。	
	保育学	保育思想、保育方法について歴史的に概観し、保育の関係、保育の営みとは何か、その本質を探り、演習では理論的背景と保育の実際について検討します。	
	保育学演習		
	保育臨床学	子どもの発達と心的世界の理解、保育者自身の自己理解と子どもとの関係理解など、	
保育臨床学演習	子どもと保育者の二側面から、保育を考察し、演習では保育臨床学的事例研究を試みます。		
保育実践論	保育・幼児教育に関する多面的な視点を学び、実践的に考察し、演習では保育実践を考えるための理論・方法論を学びます。		
保育実践論演習			
発達心理学	言語、認識、社会的スキルの発達など、これまで心理学が探究に努めてきたことを学び、		
発達心理学演習	これからの発達研究の可能性を探り、演習では多角的に理解するために必要な知識を身につけます。		
臨床心理学	乳幼児期、児童期を経て、成人期に至る人間の発達過程とそれに対応する人間の内面世界の広がり、人格形成について学び、		
臨床心理学演習	演習では主要な心理療法の原則と過程について、関係論の立場から理解を深めていきます。		
保育実践科目	児童学研究法	児童学・保育学領域における研究の仕方について、また保育の場での実習体験を深めるための保育実践研究の仕方について学びます。	
	表現演習	表現について深く知るために、概念化されたさまざまな感覚や感性を再構築していきます。乳幼児への理解を深める一歩となります。	
	新しい方法I	新しいメディア教育の考え方や利用方法について、ビデオ教材をもとにメディア教育理論を学習します。	
	保育方法	幼稚園や養護学校での実習・観察体験を交流させ、現場の先生とともに、いきいきとした子どもの理解について実践的に学びます。	
	乳児保育II	女性の地位向上、男女共同参画社会の中での、保育所における乳児保育の今後のあり方や問題点について考えます。	
	ピアノ奏法I・II	子どもたちとの生活の中でうたを歌ったり、表現を楽しむために、より高いピアノ技術の習得をめざします。	
	音楽技術A・B・C・D	声楽、ピアノ、エレクトーン、それらのアンサンブルなどを通して、幼児や児童に対し広い音楽視野をもって関わる力を育てます。	
	歌唱法I・II	歌唱のための技術を身につけ、子どものうたを中心に、さまざまなジャンルの曲を歌い、音楽への興味関心を高めます。	
	造形基礎I・II	乳幼児理解にもつながる造形行動。その大切さや楽しさを再認識し、感覚としてとらえましょう。	
	身体表現基礎	子どもの「からだのおしゃべり」を受け止め、その表現をさらに発展・展開させていく方法を学びます。	
	子どもと運動	子どもを「運動とからだの健康」と「運動とこころの健康」の両面から考察し、理解を深め、指導者の関わり方について学んでいきます。	
	歌唱表現論	人は、身近な音楽から喜びや美しさを感じます。その思いをどのような方法で効果的に表現できるかを発表を通して学び、	
	歌唱表現論演習	演習では人形劇やオペレッタ、ミュージカルを行います。	
	造形保育論	造形は人間の本性に関わりながら発生する行為。身近な自然や素材そして友だちと素晴らしい出会いができる環境について考察し、	
	造形保育論演習	演習では乳幼児の発達や興味に呼応させた保育展開を図り、具体的な環境づくりについて学びます。	
	身体表現論	さまざまな身体表現形式の歴史を統括したうえで、人間にとっての身体表現はどのような意義があるかを考え、	
	身体表現論演習	演習では幼児期における身体表現活動の理論と実際についてさらに深く学びます。	
保育指導法科目	保育内容総論	子どもの活動と保育者の援助のあり方について、発達の流れに配慮しながら、子どもの充実感と保育者の関わり方の意味を検討します。	
	保育内容の指導法(健康)		
	保育内容の指導法(環境)		
	保育内容の指導法(人間関係)		
	保育内容の指導法(言葉)		
	保育内容の指導法(音楽表現)		
	保育内容の指導法(造形表現)		
保育内容の指導法(身体表現)			
教科教育科目	国語概説		
	算数概説		
	生活概説		
	社会概説		
	理科概説		
	家庭概説		
	子どもと自然	自然を良く知り、子どもにとって自然との関わりがいかに重要かを理解していきます。	
	国語教材研究I・II		
	社会教材研究I・II		
	算数教材研究I・II		
	理科教材研究I・II		
	生活教材研究I・II		
	音楽教材研究I・II		
	図画工作教材研究I・II		
	家庭教材研究I・II		
	体育教材研究I・II		

幼児 児教		必修科目	選択科目
教職指導法科目	初等国語科指導法(書写を含む)		
	初等社会科指導法		
	初等算数科指導法		
	初等理科指導法		
	初等生活科指導法		
	初等音楽科指導法		
	初等図画工作科指導法		
	初等家庭科指導法		
	初等体育科指導法		
	道徳の指導法		
	特別活動の指導法	子どもたちの自主的・実践的な態度の育成を目標としている特別活動の特性を明らかにし、学級活動などの実践事例を通して具体的に理解していきます。	
	生徒指導論(進路指導を含む)	学校教育における生徒指導および進路指導の意義と理論を学びます。	
	学級経営法	現場の実態に即した学級の経営方法を指導します。	
	子ども家庭福祉I	少子・育児不安・児童虐待など、女性・母親・家庭をめぐる育児状況の危機をどうえ、地域・社会がいかに支えているかを考えます。	
	子ども家庭福祉II	児童福祉をめぐる具体的な状況を学び、国際的な視野の中で日本の子どもや女性・家庭をめぐる福祉がどのような位置にあるかを考えます。	
	社会福祉	社会福祉概念の意味を探るとともに、具体的なテーマを通して、福祉とは何かを自己の問題としてとらえる姿勢を養います。	
	社会福祉援助技術	社会福祉の現場実践において利用者や家族と関わる場合、必要となる関わり方・技術について、具体的に学びます。	
養護原理	児童福祉施設における養護の概念の意味を、教育概念と比較しつつ違いと共通性を把握し、養護の限界について問題意識を育てることがねらいです。		
養護内容	乳児院、児童養護施設などにおける子どもたちと職員との日常生活のあり方について、援助の問題点、人権擁護の視点について学びます。		
児童保健学I	乳幼児の身体的、生理的、精神的な発育・発達の特徴を理解し、家庭や生活環境の重要性、主な病気の早期発見、予防等について学びます。		
児童保健学II	発達障がいについて、その発生のメカニズムや臨床像、発達の特徴を理解し、多様な障がいや疾病の療育のあり方について学びます。		
児童保健学実習	児童保健学Iで学んだ基礎知識をベースに、乳幼児の健康管理と保健指導の実際について、グループでの実習を中心に学習します。		
精神保健	「こころの健康」について学ぶ科目。ライフサイクルに対応した各生活状況において、精神保健の問題を理解できるようになることが目標です。		
地域と福祉	地域福祉の関わりにおいて、ノーマライゼーション、インテグレーション、当事者参加といった理念の実現の場となり得る地域のあり方を学びます。		
食と発達	体の発育と栄養の関わりについて明らかにし、栄養学の基礎知識、小児期の食事によく用いられる食品などの特性を学びます。		
児童養護論	子どものニーズに対応した施設類型・種別の意義、施設の機能、現状課題などを学び、		
児童養護論演習	演習では実践事例を教材に、児童福祉施設における児童養護の具体的な項目を学びます。		
幼児運動論	幼児期の運動発達の過程を運動学の視点から考察。幼児期の運動発達における人的・環境的要因の関わりについて学び、		
幼児運動論演習	演習では発達に関する研究方法や測定方法についての理解を深めます。		
児童文化	絵本、物語、アニメから生活文化全般に至るまで、子どもと大人がともに織り成し、創造した文化について広く深く探っていきます。		
児童文学特論	子どもの読書の重要性が高く認識されています。乳幼児期の読み聞かせによることばと心の育成への取り組みや、子どもの本の奥深い世界について学びます。		
児童文化史	児童文化財としての人形玩具を歴史的にたどり、それらを所蔵するミュージアムについても紹介を行いながら、子どもの文化について探究し、		
児童文化演習	演習では学生各自が関心を抱く子ども文化について、具体的にテーマを見つけ、自ら調べて書くことを指導します。		
児童音楽文化論	幼児の音楽文化の歴史を学ぶことで、これからの音楽文化を考え、		
児童音楽文化論演習	演習では児童音楽文化財を研究し、幼児の発達と児童文化の関わりなど、文化を通して幼児の世界が広がっていく過程を学びます。		
書写・書道文化	硬筆、毛筆を使用して、小学校で実際に学習する教材を系統的、重点的に練習します。		
児童英語	児童にとっての英語学習・教育とは何かを、その基本的原理に立ち返って考察し、日本の教室で児童が学ぶ実践的な場面までを幅広く論じます。		
教育方法II	授業設計の中に取り入れるさまざまな情報機器の活用(特にコンピュータや電子情報ボードの利用)の方法について学びます。		
近代教育史	現代の教育の課題を歴史的視点を通して考察するための考え方や資料の読み方を提示します。		
教育社会学	少年非行・不登校・学力低下など、青少年や教育をめぐる社会問題について、社会学的な視点からアプローチすることをめざします。		
児童社会学	変遷する社会の中で、子どもたちがどのような問題にさらされているのか、実証的に検証しながら、子どもの文化と社会教育の関連性について考察します。		
児童福祉論	日本の子どもの現状と児童福祉政策・実践について基礎を理解することを目的とします。		
特別支援教育論	発達障がい児に対する特別支援教育の動向について理解を深め、最新の知識を得ること、実践に役立てられる力を育成することを目標とし、		
特別支援教育実践演習	演習では、さまざまな実態や教育実践事例を紹介しながら、障がい児教育の歴史、学習指導要領の変遷などについて学びます。		
子どもの運動発達論	人間の運動発達の特徴、誕生から児童期までに起こる運動とその発達、子どもが運動を習得する方法について学びます。		
言語文化論	広い意味での国語教育の一環として、日本におけるさまざまな言語による文化の意義を探り、さまざまな視野をもつ人材の育成をめざします。		
子どもの科学演習	身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することがねらいです。		
食指導論	小学校教師として「食」に関する指導のために必要な基礎的・基本的な食の知識を学びます。		
情報教育論	メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得をめざします。		
IT活用授業演習	ITをどの教科でもどの授業でも活用して「わかる授業」ができるIT活用授業マスターを養成することをねらいとしています。		
女性教師論	教職の意義および教員の役割、教員の職務内容、教員に求められる資質能力等を身につけるとともに、女性としての職業観、仕事観を養います。		
表現活動	学校教員として必要となる基本的な表現技法(説明、板書、朗読、指示、評価言、文章表現等)について、その基本原則と実際的な活動を学習します。		
総合演習	「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとし、グループでの調査研究活動を行います。		
教職演習I・II	学校教育上の具体的な課題を考察し、認識を深めます。		
教職演習III・IV・V	また、教職員に求められている資質や能力を養い、心構えなどについての認識を深めます。		
演習	少人数のゼミナール形式に分かれ、自分の得意とする専門領域の知識や技術を身につける研究の手法を学び、卒業研究に向けての準備をします。		
保育実習総論	実習の事前事後指導を行う講義です。実習の目的、課題を明確化するするとともに、具体的な準備や実習日誌の書き方などを指導します。		
幼児教育基礎実習・演習	幼稚園・養護学校における参加観察実習と実習後の保育記録をもとにした20名規模の準備授業です。保育者を志す者として自己理解を深めます。		
保育実習I・II	3~4年次に10日間以上保育所・居住型児童福祉施設での実習。子どものいきいきした活動を援助できるよう、基本的なコミュニケーション能力を鍛錬します。		
保育特別実習I・II	3~4年次に保育所、児童福祉施設のいずれかにおいて10日間以上の実習。		
保育・教育特別実習	資格取得に必要な実習とは別に、学生の関心や研究課題等に照らして必要と見なされる現場の実習を、3~4年次に教育・保育機関で行います。		
幼稚園教育実習I	実習の事前事後指導を行う講義です。具体的なプログラムや心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導します。		
幼稚園教育実習II			
幼稚園教育実習III	幼稚園における保育実践力を身につけると、責任の自覚と社会性の向上をねらいます。		
教育実践論	介護体験に必要な基礎的知識を学び、社会福祉施設等の実習で介護を体験し、多様な価値観と幅広い人間観を培います。		
教育実習I・II	小学校教育、指導法を知識や理論、方法などをふまえて、教育実習の心構えなどを学び、小学校で実際の教育活動を観察し、実地の授業を行います。		
児童学特別講義	広がりのある子どもの見方、考え方を身につける複数科目の講義です。子どもをひとつの枠の中で判断するのではなく、あなた自身の新たな子ども観を構築してみよう。		
卒業研究	自らの関心によって自主的に設定したテーマについて論文や作品を製作します。学生生活における学問研究の総まとめです。		

児童幼児教育学科



食物栄養学科 教員紹介

教 授 長澤 伸江

同じ夢をもつ仲間との出会いは人生の宝になります。



管理栄養士という同じ目的を持った仲間と、4年間学べることはとても素敵だと思います。授業では日本そして世界の健康・食に関する現状と課題を学び、問題解決に向けた公衆栄養活動を実践する能力、多職種と協働できるコミュニケーション力を磨いてほしいと思っています。多くのことに挑戦する4年間にしてください。

■専門分野:公衆栄養(健康・栄養・食生活調査)
■主な担当科目:公衆栄養学I・II、公衆栄養学実習、公衆栄養臨床実習、総合演習I・II
■略歴:1975年日本女子大学家政学部食物学科卒、1999年名古屋大学大学院多元数理科学研究科修了、2005年同大学大学院医学系研究科後期博士課程修了(医学)。1992年名古屋女子大学短期大学部講師、1998年同大学助教授、2004年十文字学園女子大学人間生活学部助教授。2008年教授。管理栄養士。

教 授 栗崎 純一

■専門分野:食品生化学
■主な担当科目:食品学I、食品化学実験、食品加工学、食品加工学実習、生物有機化学
■略歴:1970年東京大学農芸化学科卒、1977年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了(農学博士)。1977年東京大学農学部助手、1983年米国ペイラー-医科大学生化学部研究員、1985年農林水産省畜産試験場加工部研究室長、1999年農林水産省食品総合研究所生物機能開発部長、2001年(独)農業生物資源研究所遺伝資源研究グループ長、2006年十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学教授。

教 授 志村 二三夫

■専門分野:栄養学、生化学、食品保健学
■主な担当科目:解剖生理学、解剖生理学実験、人間生活生理学、分子栄養学、人間生命科学
■略歴:1972年東京大学医学部保健学科卒、1977年同大学医学系研究科博士課程保健学専攻修了(保健学博士)。1977年東京大学医学部保健学科助手、1978年同大学大学院医学系研究科保健学専攻助手を併任、1980年コーネル大学・ニューヨーク州立獣医科大学生理部門リサーチアシエント、1994年十文字学園女子短期大学家政学食物栄養専攻教授、2002年十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学教授。

教 授 田中 茂

■専門分野:公衆衛生、労働衛生、労働衛生保健員
■主な担当科目:公衆衛生学、公衆衛生学実験、健康情報処理実習
■略歴:1974年早稲田大学大学院理工学研究科、応用科学専攻修士課程修了。1974年中央労働災害防止協会就職、1984年北里大学衛生学部産業衛生学科、2002年十文字学園女子大学人間生活学部。

教 授 濱口 恵子

■専門分野:栄養学、食品学、栄養生化学
■主な担当科目:基礎栄養学、食品学II、基礎栄養学実験、人間生物化学実験
■略歴:1970年和洋女子大学文政学部生活学科卒。1970年十文字学園女子短期大学家政科助手、1973年十文字学園女子短期大学家政学専任講師、1985年十文字学園女子短期大学家政学食物栄養専攻助教授、2000年十文字学園女子短期大学家政学食物栄養専攻教授、2006年十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学教授。



食物栄養学科 科目一覧【2009年度】

※下記は平成21年度開講予定の科目で、平成22年度以降、変更の可能性あります。

必修科目 選択必修科目 選択科目 ※このほかに社会情報学部(社会情報学科、コミュニケーション学科)の科目の中から履修できる科目もあります。

学科専門教育科目A	社会環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理概論 社会や環境の変化が人間の健康に与える影響について学びます。健康増進や疾病予防の考え方、健康を保持・増進するために社会や環境はどうあるべきかなどについて理解を深めます。 公衆衛生学 公衆衛生の概念について学びます。人口統計、衛生統計などのデータを読み込みながら、各種保障制度についての分析も行います。 公衆衛生学実験 環境要因と健康との関係を理解するために、さまざまな環境因子を測定するとともに、いくつかの因子の生態作用を確認していきます。 健康情報処理実習 情報を適切に扱う基礎的能力を養い、コンピュータを利用した情報処理の実践を身につけます。インターネットの活用、健康情報に関する通信情報の交換等を学びます。
	人体の構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉概論 「社会福祉とは何か」を出発点として、社会福祉・地域福祉の概念や歴史、社会福祉の形態などについて学びます。 解剖生理学 人体の構造とそれぞれの機能の基礎を理解し、遺伝子レベルから、細胞、さらに消化系、呼吸系などの系統別機能を学んでいきます。 解剖生理学実験 解剖生理学で学んだことを、実際に解剖を行い確認していきます。目で見て確かめて、講義内容の理解を一層深めています。 人間生物化学 炭水化物や脂質、アミノ酸、ビタミン、ホルモンなど、それぞれの化学と体内での役割について学びます。 人間生物化学実験 人の唾液や尿、あるいは実験動物の血清や肝臓など、生体成分を機器類を用いて分析していきます。 人間生活生理学 解剖生理学で学んだことを基礎とし、人体が行う食事、運動、休養等の基本的な生活の成り立ちや人体機能が環境の変化にどのように対応するかを学びます。
		<ul style="list-style-type: none"> 医学概論 感染症から生活習慣病に至るまでの近代医学の歴史を理解し、医学の本質はどうあるべきかを考えます。 病態生理学 生理学を基礎としたうえで、呼吸器系、循環器系、血液系、神経系、ホルモン、代謝系、電解質、アレルギーなどの病的状況を解説します。 系統別疾病学 主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて学びます。生活習慣病、消化器疾患、腎疾患、代謝・栄養疾患等の疾病分類ごとの概要について理解を深めます。 病原物質・微生物学 微生物が人間の食生活におよぼすデメリットを理解するために、さまざまな種類の微生物の生態について学習します。 微生物学実験 微生物の取り扱いの基本を習得します。代表的な菌種を用いて、微生物の培養を実際に行います。

教 授 森 三樹雄

■専門分野:栄養と臨床検査、生活習慣病と栄養
■主な担当科目:病態生理学、健康管理概論、医学概論
■略歴:1966年順天堂大学医学部卒。1968年ボストン大学医学部付属カーネー病院内科・小児科イン턴、1969年ハーバード大学医学部付属ボストン小児病院病理レジデント、1971年タフト大学医学部付属ニューイングランドメディカルセンター病院病理レジデント、医学博士、1976年佼成病院臨床検査部医長、1984年獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授、2001年世界病理学・臨床検査医学会連合会長、2004年日本臨床検査専門医会会長、2006年獨協医科大学名誉教授、2006年十文字学園女子大学教授。

教 授 山本 誠子

■専門分野:調理科学
■主な担当科目:調理学、調理学実習I・II・III
■略歴:1965年日本女子大学家政学部食物学科卒、1967年日本女子大学大学院家政学研究科修士課程修了。1983年星美学園女子短期大学家政科講師、1991年同助教授、1994年十文字学園女子短期大学家政学食物栄養専攻助教授、2002年十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学助教授、2006年十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学教授。

准教授 小林 三智子

■専門分野:味覚感受性、応用栄養学
■主な担当科目:応用栄養学I・II、応用栄養学実習、臨床栄養学I
■略歴:日本女子大学家政学部食物学科食物学専攻卒、同大学大学院家政学研究科食物・栄養学専攻修了、2007年長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻博士課程修了(博士(歯学))。日本女子大学家政学部食物学助手、十文字学園女子短期大学家政学食物栄養専攻非常勤講師、2002年十文字学園女子大学人間生活学部講師。2008年准教授。管理栄養士。

准教授 名倉 秀子

■専門分野:食生活、食文化、給食経営管理、調理科学
■主な担当科目:給食経営管理論I・II、給食経営管理論実習、栄養教諭実践論I・II
■略歴:日本女子大学家政学部食物学科卒、1981年日本女子大学大学院家政学研究科修了(博士(学術))。帝京短期大学生活科学科講師、2002年十文字学園女子大学人間生活学部助教授。管理栄養士。

専任講師 井上 久美子

■専門分野:健康・栄養教育、保健栄養
■主な担当科目:栄養教育論II、栄養教育論実習II
■略歴:日本女子大学家政学部食物学科卒、1987年東京大学大学院医学系研究科保健学修士課程修了・博士課程単位修得、1995年女子栄養大学大学院博士(栄養学)。首都大学東京・東京都立短期大学健康栄養学助助手、2006年十文字学園女子大学人間生活学部講師。管理栄養士。

専任講師 徳野 裕子

■専門分野:食環境に関する研究・女子学生の健康に関する研究
■主な担当科目:栄養教育論I、栄養教育論実習I、公衆栄養臨床実習、総合演習I・II、食と育、女性と食物
■略歴:1995年日本女子大学家政学部食物学科卒、1997年日本女子大学家政学研究科食物栄養学専攻修了、2003年日本女子大学人間生活学部人間発達学専攻修了(博士(学術))。2002年十文字学園女子大学人間生活学部講師。管理栄養士。

学科専門教育科目A	食へ物と健康	<ul style="list-style-type: none"> 食品学I・II 食品成分についての基本的知識、食品の分類、植物性・動物性食品の特性や加工食品・微生物食品について学びます。 食品化学 食品学で学んだ糖質・脂質・タンパク質・色素・呈味成分・香気成分等の変化、さらに成分間の反応について解説します。 食品化学実験 食品の一般分析、油脂の化学的特徴の測定、しょうゆ中の食塩の定量などを調べ、食品の特徴に対する理解を深めます。 食品加工学 冷蔵・冷凍、缶詰、乾燥など、食品の貯蔵・加工の方法や品質の変化について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品加工学実習 食品加工学の実践について学びます。 栄養化学 炭水化物、タンパク質、無機質、ビタミンなどのそれぞれの化学、消化吸収度、代謝についての知識を修得します。 調理学 調理技術の向上と食生活の実践に役立てるために、自然、社会、人文の諸科学を基礎として、調理に関する法則を明らかにします。 調理学実習I・II 日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な献立と調理を学び、給食管理や家庭料理に自在に活用できる実力をつけます。 調理学実習III(実験を含む) 実験を通して食品素材の調理による変化について理解を深め、一方で様式別の日常食、供応食の実習をします。 調理学実習IV 調理学実習I・II・IIIを基本とし、献立としてのまとめ方、調理技術力を強化し応用を養います。 食品衛生学 食品衛生行政、食品衛生関係法規、食中毒、食品添加物、食品衛生対策などを通して、食品衛生の基本概念を学びます。 食品衛生学実験 微生物を定性的および定量的に測定。器具の乾熱滅菌、培地の調整や滅菌などの微生物実験の基礎を習得しながら、食品衛生の基礎知識を養います。 	
		基礎	<ul style="list-style-type: none"> 基礎栄養学 栄養とは何かを学びます。エネルギーと各栄養素の機能と代謝について理解を深め、健康の保持・増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を習得します。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎栄養学実験 タンパク質およびアミノ酸、糖質、脂質、無機質などの定性を測定するなど、基礎栄養学の講義に基づいた実験を行います。
		応用	<ul style="list-style-type: none"> 応用栄養学I 各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解します。 応用栄養学II・III 健康増進・疾病予防に関わる栄養素の機能を病気と関連させて説明し、健康への影響に関するリスクの考え方や方法を学びます。 応用栄養学実習 応用栄養学をベースに、各ライフステージにおける栄養特性ならびに栄養目標に応じた食事づくりの実習をします。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教育論I 健康・栄養状態、食行動、食環境等の情報の収集・分析に関し、演習の技法を取り入れながら学びます。 栄養教育論II 対象特性別(ライフステージ)、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について演習形式で学びます。 栄養教育論実習I・II 栄養教育・健康教育の専門家として必要な実践手法を習得するとともに、栄養教育を行うにあたって重要な資料となる栄養調査について、その必要性と調査方法の基礎知識を学びます。
		栄養教育論	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリング論(演習を含む) カウンセラーの人格、カウンセリング技術、カウンセリングの進め方など、演習を取り入れながら学び、傷病者等の病態や栄養状態の特徴に基づき、適正な臨床栄養ケアと総合的マネジメントの実行能力を高めます。 臨床栄養学I チーム医療の枠組みにおける管理栄養士の位置づけや職務を学び、さまざまな身体状況・栄養状態・ライフステージに対応した臨床栄養管理について、実践的知識を修得します。 臨床栄養学II・III・IV 特に栄養管理が重要な疾患について、栄養の役割と食事療法的重要性を、演習・実習の技法を取り入れながら学びます。さらに、適正な臨床栄養ケアおよび総合的マネジメントの実行能力を養います。 	<ul style="list-style-type: none"> 公衆栄養学I 国民栄養の現状と課題、栄養所要量、食糧問題、社会的要因の栄養問題、諸外国の栄養問題を学びます。 公衆栄養学II 地域公衆栄養活動の計画・実施、地域公衆栄養活動の組織づくりの方法、公衆栄養活動の現状を学びます。 公衆栄養学実習 保健所や保健センター等、公衆栄養活動をするための地域栄養計画のあり方について設定したモデルから、演習を通して学習していきます。単に栄養計画だけでなく、健康問題への働きかけの方策を知る良い機会です。
	公衆栄養学	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合演習I 専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、各領域で栄養評価や管理が行える能力を養います。 総合演習II 臨床実習を効果的に進めるため、臨床実習の事前・事後指導を行います。 臨床栄養臨床実習 病床の場で、栄養管理の専門職としての栄養業務の実際を体験します。 	
	給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 病院で働く管理栄養士に必要な栄養管理全般について、実践の場での習得をめざします。 給食経営管理論II 埼玉県下の保健所・市町村保健センター・健康増進センターにおいて、地域の健康づくり推進、住民の栄養改善に関する企画・調整など、臨床実習を通して学んでいきます。 給食経営管理論実習 学校給食施設、事業所給食施設、福祉給食施設等のうち1カ所を選択し、一週間の臨床実習を行います。 給食運営臨床実習 対象者の特徴や条件に応じた栄養管理や給食の運営について、栄養士として必要な知識および技能全体を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 	
	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 給食運営臨床実習 対象者の特徴や条件に応じた栄養管理や給食の運営について、栄養士として必要な知識および技能全体を学びます。 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 	
	臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> 公衆栄養臨床実習I・II 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 給食経営管理臨床実習 埼玉県下の保健所・市町村保健センター・健康増進センターにおいて、地域の健康づくり推進、住民の栄養改善に関する企画・調整など、臨床実習を通して学んでいきます。 給食経営管理臨床実習 学校給食施設、事業所給食施設、福祉給食施設等のうち1カ所を選択し、一週間の臨床実習を行います。 給食運営臨床実習 対象者の特徴や条件に応じた栄養管理や給食の運営について、栄養士として必要な知識および技能全体を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 	
	給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 	
	給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 	
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。 給食経営管理論II 集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。 給食経営管理論実習 大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の習得をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理臨床実習 専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。 給食運営臨床実習 次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をはぐくみ、食ではぐくむ方法論を、実践を交えて学びます。 		
給食経営管理論	<ul style="list-style-type: none"> 給食経営管理論I 対象者のニーズや給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給			



人間福祉学科 教員紹介

教授 斉川 富夫

豊かな学びと体験をしてください。



人間福祉学科の勉強ということですが、教室での学びと現場での実習(実践経験)を総合してほしいと思う。また、専門の知識・技術を身につけると同時に、豊かな感性・感受性も養ってほしい。ふだんの勉強を大切にしながら、また、優れた文化・芸術にふれ、そして、ボランティア体験を通して多くの人々と出会ってほしい。大学の4年間では、ぜひ豊かな学びと体験をしてください。

- 専門分野:社会学
- 主な担当科目:人間社会論、福祉コミュニケーション
- 略歴:1980年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。1982年青森大学専任講師、1987年青森大学助教授、1993年青森大学教授、1996年十文字学園女子大学教授。

教授 青木 孝志

- 専門分野:児童福祉(児童虐待、少年非行、施設運営、里親制度、児童相談所運営)
- 主な担当科目:児童福祉論I-II、養護原理、人間共生論
- 略歴:1959年中央大学法学部法律学科卒、1960年国立武蔵野学院付属児童自立支援専門員養成所修了。1960年埼玉県職員(埼玉学園、児童相談所、生活福祉部児童福祉課、社会福祉事業団出向等)、1996年埼玉県社会福祉協議会理事兼事務局長、2000年国際学院埼玉短期大学助教授、2001年同短期大学教授、2004年十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科教授。

教授 伊藤 わらび

- 専門分野:児童福祉の分野で、特に「児童の健全育成」「児童虐待」「母子福祉対策」等をテーマに取りあげ研究している。
- 主な担当科目:ソーシャルワーク論I-II、子ども家庭福祉I-II、社会福祉援助技術演習II-III-IV、社会福祉援助技術現場実習I-II
- 略歴:1974年明治学院大学社会学部社会福祉学科卒、1976年同大学院社会学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。1965年東京および英国の「児童養護施設」勤務、1976年保育・福祉系短大・大学に勤務、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

教授 栗原 直樹

- 専門分野:児童福祉(児童虐待、里親制度、児童相談所運営)
- 主な担当科目:児童家庭福祉論、相談援助実習指導、社会福祉実習
- 略歴:1973年立教大学文学部心理学科卒。1975年埼玉県職員(児童相談所、子ども家庭課等)。2009年十文字学園女子大学人間生活学部。

教授 宮城 道子

- 専門分野:農山漁村における男女共同参画および女性起業、コミュニティにおけるNPO展開の可能性、男女共同参画社会における福祉
- 主な担当科目:人間生活論、地域と生活、女性と起業、NPO論、ジェンダーと福祉
- 略歴:1977年東京女子大学文理学部心理学科卒、1998年東洋大学大学院社会学研究科福祉社会システム専攻修了。1977年(社)地域社会計画センター研究員、1993年十文字学園女子短期大学家政学科生活学専攻、2001年十文字学園女子大学社会学部コミュニケーション学科、人間生活学部人間福祉学科。

教授 安岡 美沙子

- 専門分野:要介護高齢者のケアの統合について
- 主な担当科目:老人福祉論I-II、介護概論、社会福祉援助技術演習II-III
- 略歴:早稲田大学文学部心理学科卒、1995年日本社会事業大学大学院博士課程前期修了。日本社会事業大学付属いたる学園、東京都職員(福祉職)、会津大学短期大学部助教授、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

准教授 新井 幸恵

- 専門分野:精神障がい者・痴呆性高齢者・家族の支援など
- 主な担当科目:介護基礎学I-II、介護技術演習II、介護実習I-II-III
- 略歴:1969年日本赤十字中央女子短期大学看護学科卒、1977年明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業、1986年東洋大学博士前期課程社会学研究科社会福祉専攻修了。1969年精神科領域(精神科看護、精神科ソーシャルワーク)、地域ケア領域(訪問看護、デイサービス看護)等を経て、1988年十文字学園女子短期大学家政学科非常勤講師、1997年白梅学園短期大学福祉援助学科非常勤講師、2004年より現職。

准教授 片居木 英人

- 専門分野:ジェンダー法学、社会福祉法制、女性福祉
- 主な担当科目:社会福祉概論I-II、公的扶助論I-II、社会保障論I-II
- 略歴:1988年日本大学大学院法学研究科政治学専攻修了、1993年日本女子大学大学院博士課程後期社会福祉学満期退学。1998年北海道女子大学人間福祉学部専任講師、2002年静岡英和学院大学人間社会学部助教授。2006年十文字学園女子大学人間生活学部。

准教授 佐藤 陽

- 専門分野:福祉教育、ボランティア、地域福祉、ソーシャルワーク
- 主な担当科目:地域福祉論I-II、ソーシャルワーク論III-IV、ボランティア論
- 略歴:2001年日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了。市社会福祉協議会福祉活動専門員、市保健福祉部福祉課地域福祉係主任、日本福祉教育・ボランティア学習学会事務局長、埼玉県地域福祉推進委員、2003年十文字学園女子大学。

准教授 中村 幸子

- 専門分野:在宅ケア、障がい者介護
- 主な担当科目:こころからのだのしみI-II、生活支援技術展開II、介護総合演習、介護基礎I-II、ケア論、介護実習指導I-II-III
- 略歴:1993年慶應義塾大学人間関係学科卒、2001年日本社会事業大学博士課程前期修了。1974年福岡大学病院(脳神経外科病棟)、1980年国立武蔵療養所(精神疾患急性期)、1987年訪問看護(高齢者、障がい児、難病)、2001年日本赤十字武蔵野短期大学(在宅看護)、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

専任講師 大山 博幸

- 専門分野:援助者の自己成長・学習支援、援助場面を対象にしたリフレクション研究
- 主な担当科目:社会福祉援助技術現場実習指導、社会福祉援助技術演習I
- 略歴:1993年横浜国立大学教育学部卒、1995年横浜国立大学大学院教育学研究科修了。1998年東京都内の特別養護老人ホームおよび高齢者在宅介護支援センターにて生活相談員および介護支援専門員として勤務、2000年東京福祉大学通信教育部非常勤講師、2004年十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科。

専任講師 野島 靖子

- 専門分野:高齢者福祉(施設および在宅におけるケアのあり方)
- 主な担当科目:生活支援技術概論、日常生活支援技術、介護実習指導
- 略歴:1975年学習院大学文学部哲学科卒。2008年大正大学大学院人間学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。1977年シルバー人材センター、1986年高齢者施設・NPO法人で高齢者ケアにたずさわる。2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

専任講師 丸山 晃

- 専門分野:障がい者・難病患者の福祉
- 主な担当科目:障害者福祉論I-II、社会福祉援助技術、介護実習I-II-III
- 略歴:2000年東洋大学大学院社会学研究科修士課程福祉社会システム専攻修了。福祉団体職員、鈴鹿国際大学短期大学部専任講師、大阪コミュニティワーカー専門学校専任講師を経て、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。



人間福祉学科 科目一覧【2009年度】

※下記は平成21年度開講予定の科目で、平成22年度以降、変更の可能性があります。

必修科目	選択科目	
		※このほかに社会情報学部(社会情報学科、コミュニケーション学科)の科目の中から履修できる科目もあります。
社会福祉概論I		Iでは社会福祉の原理と思想について学び、
社会福祉概論II		IIでは福祉政策の課題や関連施策の関係について理解を深めます。
ソーシャルワーク論I		社会福祉に関する専門職制度の意義と社会福祉士の役割について学びます。
ソーシャルワーク論II		相談援助の概念を学ぶとともに、相談援助における権利擁護と専門職の倫理について理解を深めます。
ソーシャルワーク論III		相談援助技術における人と環境の交互作用に関する理論について、また相談援助の対象とさまざまな実践モデルについて学びます。
ソーシャルワーク論IV		相談援助の過程および相談援助の面接技術について学びます。また、専門的援助関係について考え論じていきます。
ソーシャルワーク論V		相談援助における社会資源の活用・調整・開発、他職種・他機関との連携等について事例をもとに知識と技術を理解します。
ソーシャルワーク論VI		相談援助におけるスーパービジョン、事例分析、相談援助の実践について理解します。
高齢者に対する支援と介護保険制度I		高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会経済的背景をもとに高齢者福祉制度の発展過程を学びます。
高齢者に対する支援と介護保険制度II		高齢者の生活問題の中でもとりわけ重要な介護問題に焦点をあて、介護の理論や技法等について学びます。
障害者福祉論		障がいのある人の生活支援のあり方と障がい者自立支援法による障がい福祉サービスについて学びます。
就労支援サービス論		労働法規の内容と、生活困窮者や障がいのある人への就労支援制度の概要について学びます。
児童家庭福祉論I		子どもの置かれている現状と課題について考察し、児童および家庭支援のあり方を学びます。
児童家庭福祉論II		少子化対策をはじめ児童福祉施策の具体的内容について考察を深めます。
地域福祉論I		地域福祉の基本的考え方や地域に関わる組織、団体および専門職の役割と実際について理解します。
地域福祉論II		地域福祉の推進方法やネットワークの意義と方法およびその実際について理解します。
医学一般		心身機能や疾病・障がいについて、成長・発達および日常生活との関係をふまえて学びます。
社会調査の基礎I		Iでは社会調査法の基礎知識を学び、
社会調査の基礎II		IIでは調査の企画・実施・分析などを実践的に身につけます。
福祉行財政と福祉計画		福祉の行財政の実施体制や現状について、財源調達のあるり方を含めて理解を深めます。また策定されている福祉計画の意義や目的、その方法について学んでいきます。
社会理論と社会システム		現代社会をシステムとしてとらえ、また家族や地域の生活と生活問題について考えます。
公的扶助論I		Iでは低所得の人たちの生活実態とその社会情勢について理解を深め、
公的扶助論II		IIでは生活保護法の概要・運用のしくみ・自立支援プログラムの施策等を学びます。
保健医療サービス論		相談援助活動において必要な医療保険制度や、その中の専門職の役割について理論的な側面および実践的側面の双方から学びます。
社会保障論I		Iでは社会保障の概念・対象・理念を学び、
社会保障論II		IIでは社会保障制度の体系や社会保険の具体的内容について理解を深めます。
権利擁護と成年後見制度		相談援助活動において必要となる法的基礎や成年後見制度について学びます。
更生保護制度		犯罪者の更生保護に関する制度の概要とその担い手の活動内容について理解を深めます。
心理学理論と心理的支援		心理学理論による人の理解とその技法の理解を基礎として、社会福祉士に必要な心理的支援の方法と実際を学びます。
社会福祉施設経営論		福祉サービスに関わる組織や団体などについて理解するとともに、その経営や管理運営について学びます。
人間福祉特論A		福祉専門職を志す学生として、これまで学習してきた講義・演習・実習の意味や内容を総合的に整理・確認し、
人間福祉特論B		最新の福祉政策や制度改正の動向についても理解を深めます。また、その学びの集大成として、社会福祉士国家試験の合格をめざします。
家政学概論		福祉はさまざまな面で生活に支障をきたしている人々を援助する学問であり、実践です。その人間生活の根底にある学問のひとつとして家政学の概要を学びます。
福祉住環境論		高齢者や障がい者が地域で生活する場合、その生活拠点としての住の問題は大切です。日本の住宅の抱える問題や住環境整備について学びます。
レクリエーション援助法		レクリエーションの中で行われるさまざまな遊びや活動の楽しさを意図的に活用し人々を支援することを、理論的また実践的に学びます。
社会福祉の歴史		近年社会福祉の制度は大きく変化していますが、目の前の変化だけにとらわれるのではなく社会福祉の根幹を長期的な視野でとらえられるように社会福祉の歴史を学びます。
福祉機器論		高齢者や障がい者の自立をめざし、生活を豊かにする福祉機器の知識と活用法を学びます。
養護原理		児童福祉施設で生活する児童を支援するための基本的な考え方や方法を学びます。
ユニバーサルデザイン論		ユニバーサルデザインを通して、年齢、性別、障がいの有無、国籍、人種などに関わらず、誰もが使いやすい、人に優しい道具、機器、建物、サービスのあり方を考えます。
女性と福祉		社会的・文化的性差(ジェンダー)の視点から、現代の福祉をより深く学びます。
リハビリテーション論		リハビリテーションって何だろう。健康障がいのある人が人間らしく生き、潤いのある生活を送るために必要なことを考えてみましょう。
介護基礎I		日常生活の支援技術として、介護技術の基礎を学びます。
介護基礎II		
乳幼児・児童の心理学		出生から就学までの乳幼児期と小学校6年間の児童期は、人生の基礎が作り出される貴重な時期です。これらの時期の特徴と重要性を学んでいきます。
障害者の心理学		障がいをもつ人々の心理的特性を適切に理解することをめざします。
中高年の心理学		成人期以降の、生涯にわたって展開される「発達」に関する理解と認識を深めます。実践力や社会性を重視した知能、社会的能力、精神的健康管理能力の発達などを学びます。
精神保健福祉論		精神障がい者の人権を謳い続けてきた精神保健福祉の発達をたどり、心の健康をめぐる今日的実践課題を探ります。

社会福祉科目

人間福祉学科

必修科目 選択科目

※このほかに社会情報学部(社会情報学科、コミュニケーション学科)の科目の中から履修できる科目もあります。

社会福祉科目	■ 死生学	「死生学」と「死生学」は、どのように異なるのでしょうか。 多様な事例に基づき、「生の生」「生の死」「死の生」「死の死」の関連と意味を明らかにすることから考えてみましょう。
	■ ボランティア・コーディネーション	ボランティア活動の知識と推進するための専門的な技術について理解します。
	■ 市民活動論	隠れた福祉ニーズを社会の問題としてとらえるためには、一人ひとりの問題意識と行動が大切です。市民活動から福祉の心を学びます。
	■ 国際福祉論	国家・国民社会を前提にした福祉から地球の見地に立った人間福祉を考えるため、先進国の「福祉」と途上国の「開発」の双方について理解を深めます。
	■ 家族心理学	日本社会における家族の機能や特徴を歴史的背景から理解したうえで、家族の中で発生するトラブルを解決する方策を、家族システム論や家族療法等を通して学びます。
	■ 福祉と倫理	ケアまたはケアリング概念を視点に、福祉援助者の専門性と倫理について学びます。
	■ 手話	聴覚障がいのある人々の心理や生活を理解し、コミュニケーション方法を学びます。
	■ 社会福祉基礎実習	福祉は理論と実践の両輪がともなうことが必要です。そのための本格的な配属実習に先立って、施設などを見学し実態にふれて、福祉の理解を深めます。
	■ 相談援助演習I	社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、実技指導を中心に学びます。
	■ 相談援助演習II	
	■ 相談援助演習III	
	■ 相談援助演習IV	
	■ 相談援助演習V	
	■ 相談援助実習指導I	社会福祉実習の中核を占める相談援助実習の意義を理解するとともに、個別指導、集団指導を行うことによって、実習に出るための準備学習、事後学習を行います。
	■ 相談援助実習指導II	
■ 相談援助実習指導III		
■ 社会福祉実習I	社会福祉現場にのぞみ、社会福祉士として求められる相談援助を中心として社会福祉に必要とされる知識、技術、倫理を具体化し、実践的に学びます。	
■ 社会福祉実習II		
介護福祉科目	■ 基礎介護論I	介護は人権。介護の歴史や社会化の過程、国民の介護福祉への期待、介護現場の実態などを見つめる中で、介護のあり方を学びます。
	■ 基礎介護論II	さまざまな場における介護福祉士の役割とその社会的展開を探ります。
	■ 介護と倫理	利用者の人権を守り、尊厳を支えるために必要な職業倫理を学びます
	■ 介護と自立	自立とは何か? 身体運動の基礎やリハビリテーションの初歩を学びます。
	■ 介護と環境	介護者にとっても利用者にとっても安全で心地よい環境づくりを学びます。
	■ 介護と地域	障がい者、高齢者の地域生活を豊かにする地域連携や支援のあり方を学びます。
	■ コミュニケーション技術I	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて学びます。
	■ コミュニケーション技術II	また、対話技法を中心とした積極的傾聴の技術と基本姿勢を学びます。
	■ 生活支援技術概論	生活支援の考え方、生活支援技術の意義と目的について、学びます。
	■ 日常生活支援技術I	日常生活の中で支援を必要とする人々に、自立を尊重した介護を提供できるように、身じたく・移動・食事・入浴などの基本的な介護技術を学びます。
	■ 日常生活支援技術II	
	■ 日常生活支援技術III	
	■ 生活環境支援技術	日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備をすすめるための基本知識や基礎技術について学びます。
	■ 家事生活支援技術	家庭生活を中心とした人と環境との相互作用について学び、日常生活を充実させるための総合的な視点と思考を学びます。
	■ 生活支援技術応用I	利用者一人ひとりがその人らしい生活を送ることができるように、
	■ 生活支援技術応用II	利用者の状態・状況に応じた介護の工夫と留意点について学びます。
	■ 生活支援技術展開I	利用者がいきいきと生きがいを感じることができるよう、生活全体を活性化するための援助活動の基本的な方法と、援助者の果たすべき役割について学びます。
	■ 生活支援技術展開II	終末介護のあり方について、個々の感性、人間観、共感を土台に深め、個々の死生観をもち専門職としての介護能力を高めます。
	■ 介護過程基礎I	介護の実践を行う際の見立てと根拠に基づく判断の方法を学び、ケアプランの作成方法を学習します。
	■ 介護過程基礎II	
■ 介護過程展開I	「介護過程」が老人介護や障がい者介護の現場でどのように展開されているのか、その実際を学びます。	
■ 介護過程展開II		
■ 介護サービス計画	介護保険制度におけるケアマネジャーが作成する介護サービス計画とはどのようなものかを学びます。	
■ 介護実習I	介護福祉士はどのような現場でどのような役割を担っているのか、多様な実習先で基礎的な介護実習を行います。	
■ 介護実習II-1	介護実習Iや他の科目をふまえて、利用者に対して個別の介護計画を作成する総合的な介護実習を行います。	
■ 介護実習II-2		
■ 介護総合演習I	実習ごとに、実習の事前学習(実習前)、実習内容のチェック(実習中)、実習の振り返り学習(実習後)の指導を行います。実習施設の概要を理解したり、実習の心構え、日誌の書き方などを学習します。	
■ 介護総合演習II		
■ 介護総合演習III		
■ 介護総合演習IV		

必修科目 選択科目

介護福祉科目	■ 発達と老化I	発達と老化II	発達と老化I	発達の観点からの老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化に関する基礎的知識を学びます。
	■ 認知症の理解I		認知症に関する基礎的知識とともに、認知症のある人の体験や意思表示の困難な特性を理解し、	
	■ 認知症の理解II		家族をも含め周囲の環境に配慮した介護の視点を学びます。	
	■ 障がいの理解I		障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識の修得とともに、障がいのある人の体験を理解し、	
	■ 障がいの理解II		家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点について学びます。	
	■ ころとからだのしくみI		介護技術の基本となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学びます。	
■ ころとからだのしくみII				
演習	■ 基礎演習	大学の学びに必要な知的スキルを学び、さらに福祉を学ぶ学生として身につけるべき基本姿勢・能力・技術について理解します。		
	■ 演習	1・2年次の学びの中から自らのテーマを得て、ゼミを選択します。ゼミ担当教員の指導のもと、仲間とともに福祉について専門的な理解を深めます。		
	■ 卒業研究	演習において深めたテーマに応じた研究活動を行い、その成果を卒業研究としてまとめます。		

※社会福祉士(国家試験受験資格)、あるいは介護福祉士(21年度より国家試験受験資格)を取得する時には、選択科目の中でも、履修が必要となるものがあります。

人間福祉学科のブログから

十文字学園女子大学のホームページには、「十文字学園Jブロ」というブログがあります。これは、大学・短期大学部の在学生・教職員が、キャンパスライフや日々のできごとなどを日記風にレポートしたものです。大学の「いま」をご紹介します。



「十文字学園Jブロ」のアドレスは、<http://blog.jumonji-u.ac.jp/> ぜひ、見に来てくださいね。

5月

新入生たちを迎えて学科交歓会

春休み中から準備した交歓会、1年生は楽しんでくれたかな。昼食は、それぞれチームごとに先生や先輩と一緒に話がはずんでいた。お弁当に予算をかけたのは正解だったみたい。



6月

合同バーベキュー

基礎演習のクラス合同のバーベキューを企画し、学年全体の交流を深めます。自然豊かなキャンパスはバーベキューに最適。



11月

にこにこ農園

人間福祉学科の教員と学生有志による「にこにこ農園」です。これは園芸療法の研究学習を兼ねたものです。食いしん坊の集まりではありません。市内のボランティアの方にご協力いただき、秋の収穫時には「芋煮会」の開催など、1年を通じて活動をしています。



8月

介護実習

介護福祉士をめざすには57日間におよぶ実習を経験します。3年次の夏が、最終段階の実習です。実習のたびごとに成長した自分を感じ、実習施設の指導者や利用者みなさんに感謝の思いでいっぱいです。



3月

お花見の会

キャンパスの桜を新座市内の方に楽しんでいただくお花見の会。実習でお世話になった施設の方もご招待します。桜が満開の中での楽しいお花見の会です。





人間発達心理学科 教員紹介

教授 江川 政成

真の学力を得るには自ら学ぼうとする意思が大切です。



心理学の科目は多数の専門用語が出てくるため、理解を深めるためにも具体例をあげてわかりやすく説明するよう心がけています。新しいことが理解でき、覚えた事柄・専門用語を活用できれば、自然と興味・関心も膨らみますよね。それが学びの原動力になるはずです。「生涯学習の基盤は大学生活にあり」学生時代に充実した生活を送ってください。

■専門分野:カウンセリング心理学、人格心理学、理論心理学

■主な担当科目:心理学方法論、創造性の心理学

■略歴:東京教育大学教育学部心理学科卒、1969年同大学大学院修士課程教育学研究科修了(文学修士)、同大学院博士課程中退。東京教育大学教育学部助手、東京電機大学理工学部助教授、東京学芸大学教育学部助教授、東京学芸大学教授、2004年十文字学園女子大学。

教授 岡村 佳子

■専門分野:子どもから老人までの発達臨床

■主な担当科目:発達臨床心理学、母子関係論、食の心理学

■略歴:1970年お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程修了、京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。浜松短期大学非常勤講師、病院での相談員を経て、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

教授 鎌田 恒夫

■専門分野:生化学(分析)

■主な担当科目:衛生学、食品衛生学、食生活支援演習

■略歴:1967年東北大学農学部卒、1969年同大学大学院農学研究科修士課程修了、1994年東北大学から博士(農学)取得。1969年日本油脂(株)入社、1977年十文字学園女子短期大学助教授、1996年十文字学園女子大学教授。

教授 星 三和子

■専門分野:文化と社会化、乳児間のコミュニケーション、認知発達

■主な担当科目:乳幼児期の心理学、発達心理学概論、文化と発達

■略歴:1967年東京女子大学文理学部心理学科卒、1971年東京大学大学院教育学研究科教育心理学専門課程修士課程修了、1976年パリ第5大学発生心理学博士課程、1978年東京大学大学院教育学研究科教育心理学専門課程博士課程満期退学。1990年東京家政学院筑波短期大学助教授、1996年東京家政学院筑波女子大学国際学部教授、2005年十文字学園女子大学。

教授 綿井 雅康

■専門分野:文章の理解・学習過程の分析、心理検査の開発

■主な担当科目:認知心理学、コミュニケーションの心理学

■略歴:1987年東京学芸大学大学院修了、1991年学習院大学大学院単位取得退学。1991年文教大学情報学部講師・助教授、2000年十文字学園女子大学助教授、2008年十文字学園女子大学教授。

准教授 布施 晴美

■専門分野:小児看護学、小児保健学

■主な担当科目:子どもの生活支援、小児保健看護学、看護援助方法

■略歴:聖路加看護大学看護学部看護学科卒、1992年筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻リハビリテーションコース修了。聖路加国際病院小児病棟看護師、埼玉県立衛生短期大学助手、埼玉県立大学短期大学部看護学科講師、2005年十文字学園女子大学人間生活学部人間発達心理学科助教授。

准教授 松野 智子

■専門分野:学校保健

■主な担当科目:学校保健、養護概説、健康相談活動

■略歴:1967年岩手県立盛岡保健専門学院卒。岩手県立高等学校養護教諭、岩手県教育委員会指導主事。2006年十文字学園女子大学人間生活学部。

専任講師 鶴木 恵子

■専門分野:臨床心理学(特に不安障害における認知の特性とその変容)

■主な担当科目:臨床心理学概論、カウンセリング

■略歴:京都大学文学部哲学科卒、1997年お茶の水女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修士課程修了、同大学院人間文化研究科人間発達科学専攻博士課程修了(人文科学博士)。(財)長寿科学振興財団脳科学研究推進事業部門においてリサーチレジデント、病院・学校での心理相談、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

専任講師 風間 文明

■専門分野:社会心理学

■主な担当科目:心理学情報処理法、人間関係の心理学、社会調査法実習

■略歴:1992年学習院大学大学院心理学専攻博士前期課程修了、同大学院心理学専攻博士後期課程単位取得満期退学。帝京大学文学部心理学科助手、2004年十文字学園女子大学人間生活学部。

専任講師 加藤 陽子

■専門分野:性格心理学、児童期の心理学

■主な担当科目:児童期の心理学、教育相談、性格心理学

■略歴:2005年早稲田大学大学院人間科学研究科生命科学専攻博士後期課程修了。2008年十文字学園女子大学人間生活学部。

専任講師 平田 智秋

■専門分野:運動制御、運動学習、認知脳科学

■主な担当科目:人間と運動A・B、身体運動の心理学、心理学実験実習

■略歴:1993年筑波大学第二学群人間学類卒、2000年同大学大学院博士課程体育科学研究科単位取得満期退学。2000年筑波大学より、博士(体育科学)。2001年理化学研究所脳科学総合研究センター研究員、2006年十文字学園女子大学人間生活学部。



人間発達心理学科 科目一覧 【2009年度】

※下記は平成21年度開講予定の科目で、平成22年度以降、変更の可能性があります。

必修科目 選択必修科目 選択科目 ※このほかに社会情報学部(社会情報学科、コミュニケーション学科)の科目の中から履修できる科目もあります。

生涯発達	心理学概論	この科目は、心理学専攻生のいわば入り口です。心理学の過去を振り返り、現状(主要テーマ)を見渡し、人間理解の本格的な第一歩にしたいと思います。
	発達心理学概論	人が、生まれて死ぬまでの時間を生き、変化していく姿を通して人が発達することとは何だろう? という発達心理学の基本を学びます。
	乳幼児期の心理学	出生から就学までの6年間は、人生の基礎がつくれる重要な時期です。この時期の発達のおくみと様相を理解し、次に乳幼児の発達理解の方法を学びます。
	児童期の心理学	大人や青年なら誰でも通ってきた児童期。その心身の特質を、心理学的にとらえ直してみるとともに、児童期の重要性について学んでいきます。
	青年期の心理学	青年期とは「子ども」から「大人」への移行期です。アイデンティティ、身体的変化と心、性と性役割、職業観など青年期の心理的問題を取りあげます。
	中高年期の心理学	成人期以降の、生涯にわたって展開される「発達」に対する理解と認識を深め、実践力や社会性を重視した知能、社会的能力、精神的な健康の管理能力の発達を学びます。
	母子関係論	妊娠、出産、育児という過程で展開される母親の心理について学びます。母子共生、母子分離(3歳と思春期)、子どもの社会化、文化と育児などを取りあげ解説します。
	ライフサイクル論	赤ん坊だけが発達するのではなく、母親・父親・兄弟・祖父母などすべてが、互いに影響を受けながら発達するのが家族です。家族が発達する姿を心理学的に理解することを学びます。
	文化と発達	人が社会・文化の中でどう育てられ、自分をつかっていかに、いろいろな文化と比較しながら学びます。
	発達心理学特講A	ことばの獲得、読み書きコミュニケーションといった言語活動、および認知、思考や判断などの知的発達の過程について学びます。
発達心理学特講B	ひとりの人間としての人格の発達、および社会の一員としてふさわしい知識や態度・行動を獲得する過程について理解を深めます。	
心理臨床	臨床心理学概論	心の問題を理解するための初歩的な知識や、実際に問題を抱えた人を援助するための基本的な理論・技法について概説していきます。
	発達臨床心理学	発達理論、発達研究をカウンセリングの実践に適用することで人間発達の支援をめざします。変動する社会の中で求められる柔軟な生き方を学びます。
	精神保健概論	精神の健康問題を理解するうえで必須となる理論—フロイトの古典的精神分析療法、力動的療法、ストレス理論—を学習し、人の行動と心の動きの関連性を考察します。
	幼児期の心理臨床	乳児から幼児に至る心理社会的発達を学び、次にこの時期の問題行動(食事、排泄、睡眠等基本的な生活習慣に関するもの)の改善や工夫を紹介します。
	児童期の心理臨床	児童期に起こりがちな心理的問題を取りあげて、その問題・症状の特質、原因、予防対策、治療法について、具体例をあげて見ていきます。
	青年期の心理臨床	現在の青年期に特異的な問題や病理について、事例を中心に理解を深めていきます。アイデンティティや親子・友人関係などについて考えます。
	中高年期の心理臨床	老いることの受容と適応・社会的立場の激変・近親者の喪失など、中高年期に遭遇する心理的危機について、具体的な事例を通して考察し、支援や援助の方策を学びます。
	障害者の心理学	障害をもつ人々の心理学的特性を適切に理解することをめざします。(本学科では、他人に悪影響をおよぼす「害」ではなく、妨げになるという意味で「碍」を用いています。)
	障害者の発達支援	障害をもつ人たちが、自らの能力を最大限に発揮し、自立と社会参加を実現するための具体的な支援方法や、生涯、障碍と向かい合う人々の発達支援について学びます。
	カウンセリング基礎I	カウンセリングマインドを養うために、最も基礎的なカウンセリングの心構えや技法を学びます。
カウンセリング基礎II	カウンセリングには、さまざまな考え方や理論があります。そのうちの代表的ないくつかの理論について修得していきます。	
心理療法	心理療法の実践について具体的に(生育歴、家族史、問題の聞きとりから理解、共感、生活場面から問題のとらえ直し、問題の改善、時の経過による心理的变化)紹介します。	
発達臨床フィールドワーク	幼稚園や学校、保育所や児童施設、病院などで活躍する方の話を聞き、施設での見学や研修を通して、発達臨床心理学を学ぶことでどのように社会に貢献できるかを学びます。	
研究法・演習・実習	フレッシューズセミナー	人間発達心理学で学ぶために必要となる学習の基礎技能を、受講生自身の主体的な演習活動を通じて身につけることを目的とします。
	心理学入門演習	心理学の主要分野(発達、臨床、教育、社会など)の専門書や研究論文の講読を通じて、心理学の基本的な考え方を身につけます。
	人間発達演習	人間の発達や心理臨床に関連した諸課題からテーマを絞り、関連文献の講読や実証的研究を実施することで、卒業研究に向けた研究方法の習得をめざします。
	発達心理学外書講読	発達心理学に関する英文文献の講読を行います。講読を通じて、心理学の英語を理解し、外国語文献の読解方法を身につけます。
	心理学方法論	現代心理学の方法である観察法、実験法、面接法、調査法、検査法等について解説します。これらを通じて、他の経験科学との共通点と心理学特有の性質がわかります。
	心理統計法	上手にデータをとる工夫、得られたデータをわかりやすく整理する方法、そしてデータから有効な情報を取り出す手法を、いろいろな例を使いながら学習します。
	データ解析法	統計解析ソフトSPSSの基本的な使い方をマスターし、データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方や解釈の仕方を身につけるための実習です。
	心理学情報処理法	心理学の実証的研究を進めるうえで必要な情報処理技法を習得し、表計算ソフト(エクセル)を利用したデータ解析や図表の作成、レポートの作成を実習します。
	心理学基礎実験	小グループに分かれて心理学の基礎的な実験を行います。実験のやり方、データの処理の仕方、レポートの書き方といった心理学研究の基礎的な力を身につけます。
	心理検査基礎演習	心の状態を理解するための代表的な検査法について、実際の体験を通して、実施方法や結果の基本的な見方を身につけていきます。
心理学実験実習	心理学で一般的とされる実験パラダイムを理解し、その実施方法の習得を目的として、知覚や認知に関する基礎的な実験を実習します。	
社会調査法実習	社会調査のやり方を、調査テーマの設定から調査用紙の作成、データの解析、報告書の作成までの調査研究の一連の流れを実際に体験し、習得します。	
心理検査法実習	臨床現場で行われているテストバッテリーの組み方、報告書の書き方など実践的な心理検査の活用を学びます。	



人間発達心理学科 科目一覧 [2009年度]

※下記は平成21年度開講予定の科目で、平成22年度以降、変更の可能性があります。

必修科目 選択必修科目 選択科目 ※このほかに社会情報学部(社会情報学科、コミュニケーション学科)の科目の中から履修できる科目もあります。

研究法・演習・実習	行動観察法実習	「人を科学的に観察する力」を習得します。子どもの観察やビデオ記録を通して、観察する相手、場面、方法、記録について考え、技法を習得します。
	カウンセリング基礎演習	実習体験を通して、さまざまなカウンセリング方法を学びます。 同時に、自分についての理解を深めたり、より良いコミュニケーションをとれるようになることも目的にしています。
	発達・教育相談演習	幼児教育の現場で幼児との遊びを体験し、プレイセラピーの基礎概念と技法を学びます。 子どもたちの父母との対話を体験しながら教育相談を体験します。
	心理療法演習	発達相談の事例研究からテーマ(母子関係、ことばの遅れ、井戸端会議、偏食、吃、思春期の親子関係、認知症老人、世代交代)を選び、文献を通して考えます。
	インターンシップ	キャリア開発の一環として、企業、公的機関、NGOなどで2週間程度の就業体験をします。
	発達支援活動	新座市など埼玉県内の小中学校で児童生徒への援助や教員・スクールカウンセラーの補助を行います。大学での学びを活かす経験になります。
社会	社会心理学概論	社会心理学は、他者の存在する状況＝社会が人の行動にどのような影響を与えるかを研究する学問です。 社会心理学の研究知見を概観し基礎知識を身につけます。
	コミュニケーションの心理学	人と人とのコミュニケーションを支える私たちの心や行動について、基本的な特性を理解し、身近な問題に活かせるようにします。
	対人社会心理学	人は他者をどう見るか、偏見はどのように生まれるか、嫉妬心や羞恥心などの感情をどんな時に感じるか…など、対人場面での心理的現象について検討します。
	人間関係の心理学	良い人間関係をつくることは多くの人の関心事です。人はどんな人を好きになるのか、 どうやって親しくなっていくのかといった問題について心理学的に考察します。
	グループダイナミクス	集団内での人間の行動を研究する分野をグループダイナミクスといい、集団の形成、リーダーシップ、 集団意志決定などの集団にまつわる心理学的問題を解説します。
	産業心理学	産業社会での生活では経済活動、組織活動そして人間関係の営みについての知識が欠かせません。社会・企業でのメンタルヘルスについて考えます。
生活	家族心理学	日本社会における家族の機能や特徴を歴史的背景から理解し、家族の中で発生する心理的トラブルを解決する方策を、 家族システム論や家族療法を通して学びます。
	認知心理学	言語活動の基礎である「認知機能」の特徴を、心理学の視点から学び、人間の記憶、知識、思考について考察します。
	性格心理学	なぜ人には「性格」というものがあるのか、どんな種類があるのか、それはどうつくられるのか、そしてつくり直せるのか。 そんな日常感じている疑問について考えます。
	食の心理学	食行動と心がどう関係しているかを探求し、人間の感情の変化と食行動の関連について心理検査を用いて接近します。 個人差、体質、個人内変動、飲食のメカニズムを学びます。
	身体運動の心理学	身体を動かす体験はとてリアルです。そのしくみを学びながら「身体ってすごい」、「私もあなたも生きている」と感じ、 ヒトを見る眼を豊かで柔らかくします。
	健康心理学	健康を維持・増進し病気を予防・改善するために有効な心理学的知識や技術を学びます。 健康行動を強化するプログラム、ストレスマネジメントの方法を扱います。
教育・保健	創造性の心理学	現代社会をより良く生きていき、また人類社会の進歩・発展にとって欠かせない創造性というものについて、 その理論やノウハウを詳しく見ていく予定です。
	教育心理学I	学習の過程、教授学習の様相、学級集団の特質について、心理学的な知見をふまえてつ、 学校教育現場における実際的な問題を具体的に考えることをめざします。
	教育心理学II	児童生徒の心身の発達について学習し、「発達」という心理学的な概念の理解をふまえて、 受講生自身の成長・発達の様子を、客観的にとらえ直すことをめざします。
	生徒指導	学校教育における生徒指導の意義と理論を学び、より具体的なテーマー問題行動の指導、ホームルームでの進め方、進路指導ー の実践的指導方法を習得します。
	教育相談	子どもはそれぞれに期待や欲求をもち、それを実現しようと果敢に挑戦します。時に失敗し、不適応に陥ります。 こうした状況の子どもたちをどう支援するか学びます。
	子どもの生活支援	子ども時代をどう過ごすかということは、子どもの将来にとっても大切なこと。 未来を担う子どもたちが心身ともに健全に成長するための生活支援を学びます。
教育・保健	養護概説	学校教育現場における養護教諭の職務や活動を理解するとともに、養護教諭・保健室の機能について、具体的な活動事例を通して認識を深めていきます。
	学校保健I	児童期・青年期における健康の保持増進に不可欠な保健教育と保健管理について、具体的な内容に基づいて理解を深める予定です。
	健康相談活動	小学校児童・中学・高校の生徒からの心と身体の相談に対応するために必要となる理論と技法を学習します。 相談活動の開始から終結までの具体的な取り組みを学びます。
	免疫学	人間の生体防衛を担当し、神経系や内分泌系とともに恒常性(ホメオスタシス)を構築している免疫システムについて理解を深めます。
	衛生学	身体的・精神的機能を十分に発揮して長寿を全うすることは万人の願いです。 感染症、生活習慣病、免疫とアレルギー、老化に関する基礎的知識を学び、その先端科学を理解します。
	公衆衛生学	人は生命をはぐくむ自然環境、日常生活を支える生活環境、また集団として社会環境の中で生きています。 これらの環境を保全し、健康を維持し、豊かな生活を確保することを学びます。
	看護学概論	看護とは何か? 対象である人に対する倫理的配慮や権利を守ることはどういうことなのか? など、看護の概念や看護の果たす機能や役割を勉強します。
	看護援助方法	病気は人の生命力を消耗します。生命力の消耗を最小限にし、人の自然治癒力の向上をめざす基本的な看護技術について学びます。
	小児保健看護学	成長発達を続けている子どもたちに生じる心と体の健康問題について学習します。また健康障がい有している子どもたちの心身の援助についても学びます。
	救急処置活動	救急処置が必要な人が目の前にいます。何をどのように観察し、それをどう判断して、どのような行動をとれば良いのでしょうか。そんなことを学びます。
臨床看護実習	学内演習や病院での臨床講義を通して、身体不調の子どもの支援や感染管理について、基礎的知識・技術を学びます。	
人間福祉	社会福祉概論I	社会福祉は、国民の権利として考えられている必要不可欠な存在です。私たちは義務として基礎的な知識の学習を進めなければならないですが、 本講座では講義や福祉の現場の状況などについて理解を深めこれに応えます。
	老人福祉論I	老化や高齢期を取り巻く社会情勢を明らかにするとともに、高齢期を健やかに過ごし、人生を完結するための法・制度など社会的方策、 およびそれを個別事例等に適用し援助するなど高齢者援助の実践活動の方法論について学びます。
	児童福祉論I	日本および外国の児童福祉の歴史と理念の変遷について学ぶとともに、現代社会における児童の成長・発達や家庭、学校、地域の変容に合わせて 大きな影響を受けていることを確認し、いまだのようなサービスが求められているかを考えます。
	子ども家庭福祉I	子どもの発達上の諸問題を取りあげ、健全な成長を阻害する家庭環境問題について理解するとともに、 家庭問題解決のための福祉的対応について学習します。また、子どもの成長における家庭(家族)の意義について学びます。
	精神保健福祉論	あなたは自分が好きですか? 自分が好き、あなたが好き～という健やかな心の状態を精神的健康といいます。 生まれてから死ぬまでの心のありよう、発達をたどり、また不健康な心のあらわれ方、その克服の手立てを探ります。
	レクリエーション論	保健への理解を深め、健康増進に必要なレクリエーションについて、理論的認識と実技トレーニングを行い、ソーシャルワーク実践に活用できるよう学びます。
リハビリテーション論	リハビリテーションってなんだろう。健康障がいのある人が人間らしく生き、潤いのある生活を送るために必要なこと、そんなことを考えてみましょう。	
卒業研究	卒業研究	人々の発達・臨床・社会・生活に関連したテーマについて、人間発達演習で修得した知識や研究方法を活用しつつ研究を進めます。
	卒業論文	卒業研究の内容をさらに発展させ、論文の作成、発表などを行います。

必修科目 選択必修科目 選択科目

教育・保健	看護学概論	看護とは何か? 対象である人に対する倫理的配慮や権利を守ることはどういうことなのか? など、看護の概念や看護の果たす機能や役割を勉強します。
	看護援助方法	病気は人の生命力を消耗します。生命力の消耗を最小限にし、人の自然治癒力の向上をめざす基本的な看護技術について学びます。
	小児保健看護学	成長発達を続けている子どもたちに生じる心と体の健康問題について学習します。また健康障がい有している子どもたちの心身の援助についても学びます。
	救急処置活動	救急処置が必要な人が目の前にいます。何をどのように観察し、それをどう判断して、どのような行動をとれば良いのでしょうか。そんなことを学びます。
	臨床看護実習	学内演習や病院での臨床講義を通して、身体不調の子どもの支援や感染管理について、基礎的知識・技術を学びます。
	人間福祉	社会福祉概論I
老人福祉論I		老化や高齢期を取り巻く社会情勢を明らかにするとともに、高齢期を健やかに過ごし、人生を完結するための法・制度など社会的方策、 およびそれを個別事例等に適用し援助するなど高齢者援助の実践活動の方法論について学びます。
児童福祉論I		日本および外国の児童福祉の歴史と理念の変遷について学ぶとともに、現代社会における児童の成長・発達や家庭、学校、地域の変容に合わせて 大きな影響を受けていることを確認し、いまだのようなサービスが求められているかを考えます。
子ども家庭福祉I		子どもの発達上の諸問題を取りあげ、健全な成長を阻害する家庭環境問題について理解するとともに、 家庭問題解決のための福祉的対応について学習します。また、子どもの成長における家庭(家族)の意義について学びます。
精神保健福祉論		あなたは自分が好きですか? 自分が好き、あなたが好き～という健やかな心の状態を精神的健康といいます。 生まれてから死ぬまでの心のありよう、発達をたどり、また不健康な心のあらわれ方、その克服の手立てを探ります。
レクリエーション論		保健への理解を深め、健康増進に必要なレクリエーションについて、理論的認識と実技トレーニングを行い、ソーシャルワーク実践に活用できるよう学びます。
リハビリテーション論	リハビリテーションってなんだろう。健康障がいのある人が人間らしく生き、潤いのある生活を送るために必要なこと、そんなことを考えてみましょう。	
卒業研究	卒業研究	人々の発達・臨床・社会・生活に関連したテーマについて、人間発達演習で修得した知識や研究方法を活用しつつ研究を進めます。
	卒業論文	卒業研究の内容をさらに発展させ、論文の作成、発表などを行います。

養護教諭一種免許状の取得に必要な科目(学科の科目と並行して履修する必要があります)

教職入門	現代社会における学校教育の課題を理解し、教員の職務内容(服務・研修)について学び、教員採用など進路選択に向けた学習態度の形成をめざします。
教育基礎論	近代学校制度の礎となる教育理念や教育思想について、歴史の変遷をふまえ理解を深めます。 今日的な学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項を学びます。
教育方法I	中等教育における教育方法学の基本を学びます。教育課程の意義や編成を理解し、 学習指導の原理や教育メディアを活用した指導技術について具体的に学びます。
教育方法II	中等教育における教育方法のあり方について、授業設計を中心に学びます。授業設計に取り入れるべき情報機器の活用方法について理解を深めます。
道徳教育	初等・中等教育における「道徳教育」の理念や歴史に対する理解を深め、学校現場における道徳教育の進め方を、多角的に考察します。
特別活動	学校教育における特別活動の位置づけを理解するとともに、 学校教育の今日的課題である「『生きる力』の育成」という視点から特別活動のあり方・進め方を考えます。
総合演習	今日の社会をより多角的・より総合的に理解する能力を向上させるために、 情報社会・国際理解・環境問題・地域社会という側面から、演習形式で学習を進めます。
養護実習I	養護実習前に、養護教諭の職務内容に関する知識・技能を再確認し、実習後には、自らの実習体験をもとに、養護教諭や保健室の役割について理解を深めます。
養護実習II	受け入れ校で4週間わたる実習を行います。学校保健活動の位置づけや学校保健組織を実践的に理解し、 保健室の機能と養護教諭の役割について実務を通して理解します。
教育実践論	中学校教員免許の取得に義務づけられている介護体験に必要な基礎的な知識を修得し、中等教育における統合教育の優れた実践事例について学びます。
教職演習I	教職に関する科目の既修得事項について、総合的な観点から整理して理解し、教員に求められる資質や態度の認識を深めていきます。
教職演習II	教育現場の今日的な課題ー人権教育、学級経営、勤労体験学習、男女平等教育ーに対する認識を深め、各自が理想とする教員像の明確化を図ります。
学校保健II	学校保健Iで、学習したことをもとにさらに保健教育、保健管理について理解を深めていきます。
養護教諭実践論	学校現場における養護教諭の活動を具体的に知り理解することを通して、養護教諭の職務遂行に必要な実践能力の向上をめざします。
基礎栄養学	基本栄養素(炭水化物、糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン)の生理的機能を学びます。さらに、日常の食事による栄養摂取についての理解を深めます。
食品学	動物性食品を中心として、その特徴・品質、生産から利用加工にいたるまでの過程、貯蔵法について理解を深めます。
食機能論	食品がもつ第三の機能(生体に対する調節機能)について理解を深めます。食品による免疫系の賦活・生体活性、保健機能食品制度などについて学びます。
解剖生理学	正常な人体の構成単位である細胞レベルから、組織、器官レベルまでの構造や機能を体系的に理解することをめざします。
解剖生理学特論	基本的な人体のしくみと機能を理解し、健康な状態が維持できない病的な状態について、生体内で何が生じているのかを学習します。
食薬理学	人体と化学成分との相互作用を扱う薬理学的な観点から、化学成分・栄養成分・食物成分に対する理解と、 人体の各機能にもたらす効果について理解を深めます。
児童生徒の精神保健	児童期・青年期の問題行動や心の疾病について、基礎的な知識とその対策を理解し、 具体的な症例の紹介を通して、家庭・学校・医療機関の連携について学びます。